

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
2	5	認知症ケアを実践するホームと、地域の認知症者や家族の在宅課題を把握している市担当部署が連携し、綾部市の認知症ケアの向上に、ともに取り組む関係のできる事を期待する。	行政や関係機関と連携をとり、地域の課題について、ともに話し合い、課題解決に向けて協力し合える関係づくりをすすめる。	①日常のサービスや、認知症ケア教室、認知症相談窓口などの活動からの気づきや課題を、市担当者、地域包括支援センターなどに丁寧に伝え、課題解決に向けて話し合っていく機会をつくる。 ②22年度から始めた認知症ケア教室や、現在検討中の地域包括支援センターと連携した、認知症の方やご家族を対象にした相談事業などをとおして、協力し合って、認知症の方やそのご家族が安心して暮らしていける地域づくりをすすめていく。	12ヶ月
3	35	ホーム内にAEDの設置を期待する。		法人に提案し、検討していく。	12ヶ月
1	20	かつての馴染みの人や場所については、生活歴からの情報や、家族、知人、地域の人達の力をかり、すでに実践されているところである。しかし、この項目の実践については、今一度、利用者の暮らしをふり返り、取り組みに関して、検討を望みたい。	ご家族や地域の方に、ご利用者の暮らしをもっと知ってもらえるようアプローチし、今後、継続して共に、ご利用者の暮らしを考えていける関係づくりをすすめていく。	①23年度より、1ヶ月に1度、たのやまだよりを作成し、ご利用者の暮らしをこれまで以上に分かりやすく伝えていく。 ②ご利用者の思いをもとにした外出やイベントの機会を積極的につくり、ご家族や地域の方にも呼びかけ、和やかな時間を共有できるように働きかけていく。 ③グループホームの環境や雰囲気づくりを工夫し、人が集える場所、また来たいと思える空間づくりをすることで、ご利用者の暮らしの幅を広げていく。 ④2～3年かけて、介護計画や諸記録の内容や様式、カンファレンスやスタッフ会議の方法などについて検討してきたため、今後はスタッフ一人ひとりが記録やカンファレンスの方法や内容について、常に問題意識を持ち、気づきや課題を出し合い、その時々ケアに即したものに改善していくことで、チーム力のアップにつなぎ、質の高いサービスを提供できるようにする。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。